

eCore(エコア)は USB 型パソコンシンクライアント端末化ツールです。 OfficeCloud(オフィスクラウド)をご利用のお客様には、イメージデータを無償でご提供します。 USB メモリ自体はお客様にてご用意ください。



※ご提供は無償ですが、サポートが必要な場合は有償となります。

INFINITY

eCore は Puppy Linux をベースにした

「USB ブート型シンクライアント専用端末化ツール」です。

USB ブートができるパソコンであれば利用可能です。

利用用途として、

- ・古い Windows や HDD 故障パソコンの再利用
- ・パソコン故障時の復旧&代替利用

としてご利用ください。

「オフィスクラウドサービス」をご利用のお客様には無償でご提供をいたします。

【無償化した理由】

- ・古いパソコンでも再利用したいが、サポートが切れた Windows では心配
- ・故障、起動しなくなったパソコンでも、大切な資産として最大限まで利用したい

このようなお客様の声から、『再利用を行いつつ、コスト面の負担も軽減していただきたい』、 その想いから本ツールを無償化させていただくこととしました。

無償ご提供の関係上、直接のサポートを行うことはできかねますので、

本マニュアルをご活用ください。

サポートをご希望のお客様は「有償サポート」をご用意していますので、ご連絡ください。

【注意点】

- ・eCore をインストールされる USB メモリは、 1GB 以上の USB ブートが可能なものをご用意ください。
- ・USB ブートが利用できない機械ではご利用になれません。

2)マスター作成方法

- ①「eCore ダウンロードサイト」にアクセスします。
- ②「eCore イメージダウンロード」をクリックします。
- ③「eCore_Master_Create.zip」 がダウンロードされます。
- ④ダウンロードされた「eCore_Master_Create.zip」を解凍します。

※解凍するには解凍ソフトウェアが必要になる場合があります。(例えば Iha+) ⑤解凍すると、フォルダ内には2つのファイルがあります。

- ・eCore-USB メモリへ書き込み.exe
- eCore.iso

⑥eCore として利用するための USB メモリを用意し、パソコンに繋ぎます。

⑦「eCore-USB メモリへ書き込み.exe」をダブルクリックして実行します。

下記のような画面が表示されるので、

- ・画面下部の「ディスクイメージ」を選択。
- ・プルダウンは「ISO」のまま。
- ・参照ボタンをクリックし、先ほどダウンロードして解凍した「eCore_Master_Create」内の「eCore.iso」を指定。
- ・タイプは「USB ドライブ」のまま
- ・ドライブは USB メモリが挿されたドライブを指定。
- ※(マイ) コンピュータを開き、USB が認識されているドライブを確認してください。上記の設定を行ったら、「OK」ボタンをクリックします。

🕱 UNetbootin
◎ ディストリビューション(D) == ディストリビューションを選択 == ▼ == バージョンを選択 == ▼
ようこそユニバーサルなネットブートインストーラー <u>UNetbootin</u> へ。利用法:
1. 上記のリストからディストリビューションとバージョンを選択、または手動でロードするファイルを指定。 2. インストールのタイプを選択し、OKボタンを押すとインストールが始まります。
● ディスクイメージ(i) ISO ▼ feCoreMasterCreate¥precise-550JP.iso
スペースは、リブートしてもファイルを維持するために使用(Ubuntuのみ): 0 🔶 MB
タイプ(T): USB ドライブ ・ ドライブ(v) 「F¥ OK キャンセル

⑧しばらくインストールが行われますので、終わるのを待ちます。

⑨インストールが完了すると、「再起動後に試すことができます」のメッセージがでますが、 再起動は行わないでください。

⑩(マイ)コンピュータを開き、USB メモリの中身を表示します。

⑪これで、USB の作成は完了です。

②作成した USB メモリを eCore を利用するパソコンに挿して起動の確認をします。※事前に BIOS の設定(初回起動方法参照)を行っておいてください。

正常に作成できていれば、eCore が起動してきます。

3)初回起動方法

初めて起動をする場合は、BIOS から USB 起動を優先するように設定してください。 ※ベーシックな方法を記載します、メーカーにより操作方法が異なる可能性がございます。 ※メーカーにより設定画面が異なるため、画像は割愛いたします。

①パソコンの電源を入れます。

②F2(キーボード上)を押します。※F2 は BIOS 設定画面を起動するボタンです。数回F2 を押しておくと、しばらくすると起動します。

BIOS 設定画面に移行せず、Windows が起動してしまった場合は、

F2 を押すタイミングが遅いため、再起動をして試してください。

③文字のみで構成されたシンプルな BIOS 設定画面が表示されます。

- ④「BOOT」と記載された項目を探し、選択します。
- ⑤「Boot Priority」(起動優先順位)と記載された項目がありますので、
 最優先項目に「USB-HDD(または USB Flash XX)」を設定します。
 ※USB-HDD を選択し、+(もしくは↑)で順位を変えることができます。
 ※おそらく変更する前は、CD-ROM または HDD が選択されています。
 ⑥優先順位の変更が完了したら、キーボードの「ESC」を押します。

SAVE And Exit? のメッセージがでますので、OK(または Y)を選択します。 ⑦再起動がかかりますので、設定した eCore-USB を挿し、起動するかの確認を行います。 ⑧起動をすると eCore のデスクトップが表示されます。

4) eCore デスクトップ画面の説明

起動に成功すると、下記のような画面が表示されます。



🛞 Remmina Remote Desktop Client 🗕 🗆 🗙						
			Remmin	a Remote Desktop Client Remote Desktop Client		
接続名	グループ	接続先▼	プラグイン	最終接続		
⊗サーバー接続			RDP	2021-02-22 - 12:13:03		

サーバー接続 (/root/.local/share/remmina/group_rdp_サーバー接続_host.remmina)

上記画面がサーバーに接続するためのツール「Remmina」です。 自動起動またはデスクトップ上の「サーバー接続」をクリックすると起動します。 ①既に「サーバー接続」という設定があるので、こちらを編集します。

または、左上の白いアイコンをクリックすると、新しい接続設定を作成できます。

🛞 Remmina Ren	note Desktop Client _ C X Remmina Remote Desktop Client Remote Desktop Client
接続名	レ プ 接続先▼ プラダイン 最終接続 RDP 2021-02-22 - 12:13:03
	右クリック ⇒ 編集
サーバー接続(/ro	ot/.local/share/remmina/group_rdp_サーバー接続_host.remmina)
🧿 Remote Deskt	op Preference
Name	Quick Connect 接続の名前
Group	
Protocol	RDP - Remote Desktop Protocol
Pre-command	command %h %u %t %U %p %goption
Post-command	/path/to/command -opt1 arg %h %u %t -opt2 %U %p %g
Basic Advanc	ad Autostart SSH Tunnel
Carrier	
Server	接続先の IP アドレス
Username	利用するユーザー名
Password	パスワード
Domain	ドメイン
Resolution	Use initial window size Use client resolution
	O Custom 640x480
Colour depth	True colour (32 bpp)
Share folder	
	Cancel Save as Default Save Connect Save and Connec

保存



上記で設定が完了です。

5) ネットワークの接続方法

デスクトップ上にある、「Network 接続」アイコンをクリックしてください。 「ネットワーク接続」の画面が表示されますので、有線LANなら「eth」、 WiFi接続なら「wlan0」を選択し、ネットワーク接続を行ってください。



6)設定の保存

デスクトップ上の「save」アイコンで設定の保存ができます。



7) シャットダウン

デスクトップ上のツールバー内の、電源ボタンをクリックしてください。 ログアウトウィンドウ内の、「シャットダウン」をクリックしてください。



